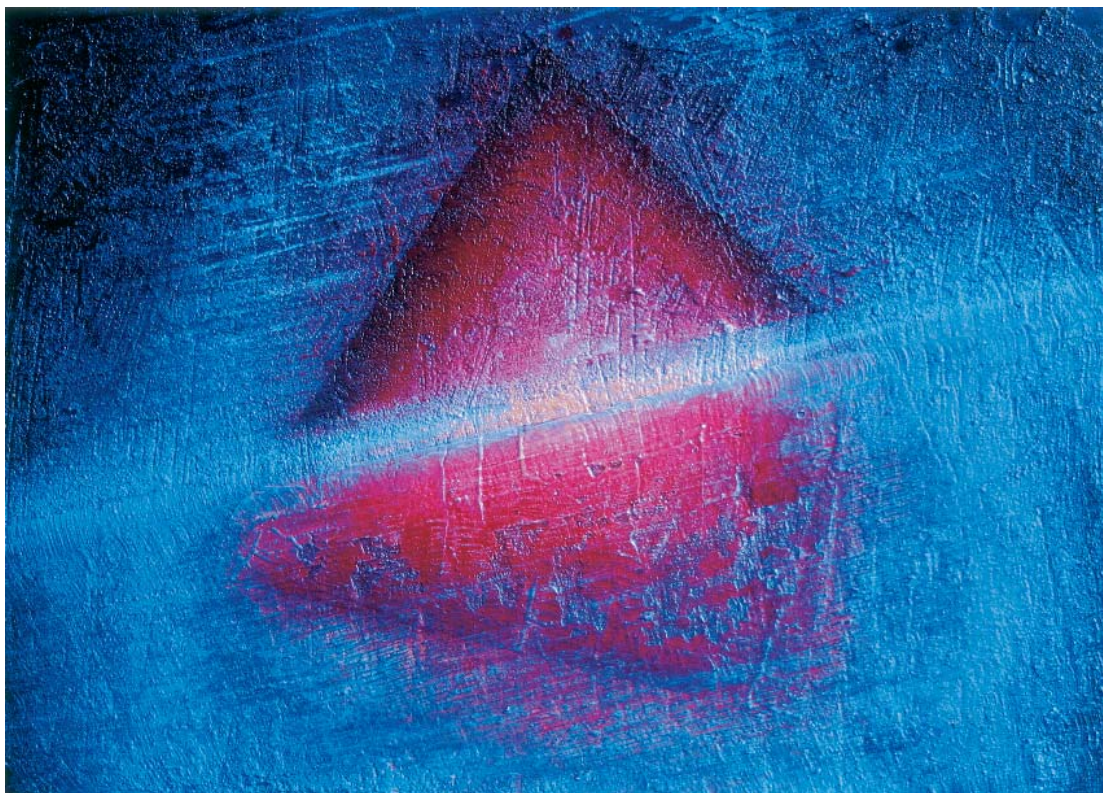


福 井 県 医 師 会

だより

第571号 平成21年(2009)1月

新 春 特 集 号



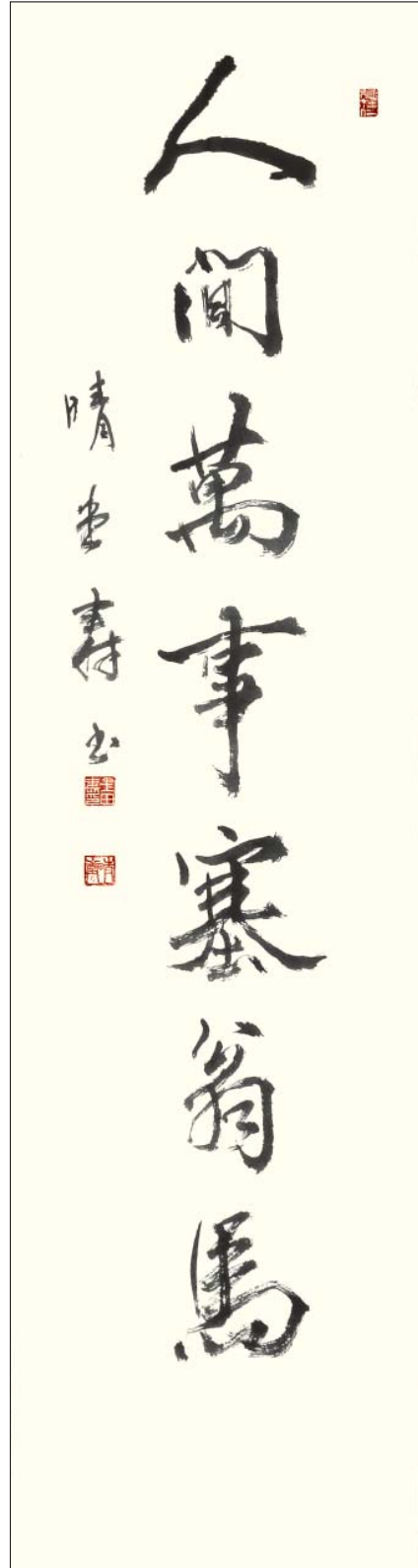
曙 福井市 平野 治和

表紙写真説明：曙

福井市 平野 治和

知り合いから「あなたの絵は癒し系抽象画だね」と言われた。人間が一番癒されるのは自然、中でも太陽の光だろう。人類誕生より太陽信仰はあったという。医療の世界にも曙の到来を願う。

書



人間萬事塞翁馬

淮南子

よく御存知だと思えます。唯、人間を日本語的に人間とふりがなのある書もありますが、漢語では人間と呼び、人の世、世間、さらに人生を意味します。人間は人一字です。

昨、平成二十年の人の世は暗い、そして不景気な一年でした。今年は塞翁の馬が福を運んでくれないだろうか。禍が福になればよいのだが。

福井市 土田 寿

## 新年のご挨拶

福井県医師会長 松田尚武

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはご壮健にて新年を迎えられたこと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、福井県医師会に対しまして温かいご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年はアメリカ発の金融危機により世界同時不況に見舞われ、日本の景気も一転後退期へと陥りました。

そんななか、医療界も、小泉内閣6年の間に決められた新自由主義的改革によるところの数々の医療費抑制策が実行されてきたことにより地域医療は崩壊寸前の状況に至ったのであります。

ただ、突然の福田首相退陣のあとを引き継いだ麻生首相は、昨年暮れの2009年度予算編成方針決定にあたり、社会保障費抑制策として「骨太の方針2006」に拠り、この2年間実行されてきた毎年2,200億円の自然増の機械的削減に関して、「最早限界にきている」と「堅持」から「維持」へと文言を改め見直しの方向を示されたのであります。

これは、もちろん日本医師会による医政活動、また国民を巻き込んだ各医師会の活動の成果であり、また唐澤日本医師会長も委員として出たおられた社会保障国民会議からの最終報告を踏まえての対応であります。

国も今、やっと医療費を過度に抑制し続ければイギリスの二の舞になること、また医療を過度に市場経済に委ねるとアメリカの二の舞になることに気付いたのではないのでしょうか。

一方、本県内におきましては、昨年4月、「第5次保健医療計画」が公表されました。ここには今回、新たに、所謂、4疾病5事業にかかる数値目標が設定され医療連携体制の構築にすることが盛り込まれました。これは、これから5年毎に、その達成度を評価し、必要に応じて見直しを図られることになっております。

本会では、この計画策定にあたり、これを審議する福井県医療審議会また専門機関としての各部に、私はじめ担当役員が委員として出席

し、地域医療の第一線にいる医師会員の意見が計画の中に十分反映されるよう努力を致したのであります。

次に昨年末には第5次医療法改正における「医療機能情報提供制度」に対応するための調査表が各医療機関に対して県より送付されました。

この事業は、各地域の医療連携、各医療機関の機能を住民にわかりやすく公表することを目的としており、福井県においては本会の意向を汲む形式において、本年4月からの公開に向け新年早々より準備が進められることとなります。

また今年も、介護報酬の改定の年ではありますが、過去2回引き下げられている介護報酬について、今回の改定においてプラスを確保して介護従事者の処遇改善を図らなければなりません。本県の介護事業者においても従事者不足によってサービス提供体制が維持できなくなる恐れがあります。

急速な少子・高齢化を迎え、国民の医療・保健・福祉に関するニーズはますます高まるとともに多様化しております。ここにおいて、昨年にも増して多難な年となりますが、われわれ医療担当者は、世界に誇れる国民皆保険制度をもとに、国民の健康を守るための医療や介護を提供すべく、これからも懸命の努力をしていかなければなりません。

すでに昨年12月1日から新公益法人制度に向けての移行期間に入っております。移行までには5年の期間が設けられているものの、本年中には日本医師会また全国都道府県医師会の動向も見据え、本会としての方針を決定していかなければならないと存じます。

今年も課題の多い1年になると思いますが、県民の健康を守り、地域医療をこれ以上後退させないため、福井県医師会は、課せられた使命を果たすべく、昨年同様、努力して参る所存でありますので、会員各位におかれましてはより一層のご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。